

Collection Focus コレクション・フォーカス

# 美術館のプロフィール

収集の軌跡 / 新収蔵作品展

The Profile of Hiroshima Prefectural Art Museum  
The History of Collection / New Collection Exhibit

工芸 | No. HA-001

今井政之《「條」岩泥彩壺》  
1968(昭和43)年



最初のコレクションたち

日本洋画 | No. O-001

岡部繁夫《作品MWB》  
1967(昭和42)年



日本画 | No. J-001

金島桂華《冬瓜》  
1955(昭和30)年



西洋絵画 | No. O-040

ポール・ジェンキンス  
《現象・落着・顔おおいの日》1968年



2024 1/2 tue  
▶▶▶ 4/21 Sun

フリー  
トークデー  
2/24 sat  
自由に感想を話しながら  
展覧会を楽しもう!

[開館時間] 9:00~17:00  
※3月31日までの金曜日は19時まで開館、4月1日からの金曜日は20時まで開館 ※入場は閉館の30分前まで  
[休館日] 月曜日(祝日、振替休日は開館)  
[入館料] 一般510(410)円 / 大学生310(250)円 ※ ( )内は20名以上の団体  
[縮景園共通券] 一般610円 / 大学生350円 ※特別展は別料金  
※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。  
※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

広島県立美術館 2階展示室  
Hiroshima Prefectural Art Museum <https://www.hpam.jp/>

第4期

## 【概要】

## 所蔵作品展 第4期 美術館のプロフィールー収集の軌跡

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数 5,000 点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展では、県内の巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と、コレクション・フォーカス「美術館のプロフィールー収集の軌跡」の 2 本立てで、当館の歴史を振り返りつつ、バラエティ豊かなコレクションをご紹介します。

3 期に引き続き、展示室付近に皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーを設けるとともに、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。フリートークデーの試行も重ねてまいります。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今年の当館の活動にもご期待ください。

## 【第1展示室】

## 開館初期のコレクション



今井政之《「條」苔泥彩壺》1968年

1968年、中国地方初の公立美術館として開館した当館は、当初、所蔵作品を持っておらず、ゆかりのある方々からの作品寄贈によってコレクションをスタートさせました。

広島ゆかりの作家や作品の研究と顕彰は、公立美術館にとって責務であり、この時期の作品受け入れには、大きな意義があったと言えるでしょう。

ここでは、開館当初の様子を感じていただきたいと考え、各分野の最初の収蔵品を集めました。日本画は<sup>かなしまけいか</sup>金島桂華の《冬瓜》、油彩画は<sup>おかべしげお</sup>岡部繁夫の《作品 MWB》、工芸は<sup>いまいまさゆき</sup>今井政之の《「條」苔泥彩壺》など、個性豊かな作品が揃っていることに驚かされます。

また、美術館の開館にあたって構想段階から協力していた日本画家・児玉希望こだま きぼうからの自作一括寄贈や、洋画家・小林和作こばやし わさくが収集した作品など、現在、当館コレクションの一翼を担う作品群もこの時期の収蔵品として注目されます。



児玉希望《烟雨》1954年

## 【第2展示室】

1996年のリニューアルオープンに向けて補強されたコレクション

開館から数年が経過して、徐々に購入による作品収集が行われるようになると、所蔵作品展もある程度テーマに沿った展示が行えるようになりました。

さらに、開館から20年の節目を機に館の全面改築が計画され、あわせてコレクションを拡充する特別収集方針が策定されました。

この方針に沿って、リニューアルオープンに向けたコレクションの補強が始まり、各分野とも充実していくのです。サルバドール・ダリの《ヴィーナスの夢》や、鬯光あいみつの《海》、平櫛田中ひらくしてんちゅうの《五柳先生》、当館のマスコットとしておなじみの《伊万里柿右衛門様式色絵馬》い まりかき え もんようしきいろ えうまもこの時期の収蔵品です。

ここではそうしたリニューアルオープンに向けて購入され、現在、当館コレクションの核となっている作品をご紹介します。



鬯光《海》1943年



ライオネル・ファイニンガー《海辺の夕暮》1927年

## 【第3展示室】

その後もゆっくと成長を続けているコレクション

ちょうど、バブルがはじけた時期と重なる 1996 年にリニューアルオープンした当館は、広島県の財政悪化を受け、リニューアルオープン後は作品購入を停止しました。しかし、そうした状況下でも篤志家の皆様から作品の寄贈は続き、コレクションは徐々に成長しています。中には、藤田嗣治の《婦人像(リオ)》や菅井汲作品の一括寄贈、曾我蕭白の《伯顔図》や、重要文化財《伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式)》と各分野とも注目を集める作品の寄贈がありました。

また、浜田庄司の《黒釉錆流描大鉢》は、美術館と共に活動していただいている美術館友の会からご寄贈いただいたもので、美術館にとってもひととき、思い出の深い作品です。

このように作品の収集の経緯は一様ではありませんが、少しずつ集まった作品たちが新たな物語を紡いでいます。



重要文化財  
《伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式)》  
17 世紀後半



名井萬亀《宮古市浄土が濱》  
1973 年

## 【第4展示室】

新収蔵作品



和高節二《早乙女》1929 年

この展示室では、今年度、新たにご寄贈、ご寄託いただいた作品をご紹介します。日本画では熊谷直彦の《秋景山水図》、橋本静水の《柘榴栗鼠》、里見雲嶺の《竹雀図》、洋画では高橋秀の大作《路》が、工芸では渡辺溥子の紬織着物や廣斎の《堆漆時絵四季草花之図机》、平面造形では赤瀬川原平の《大日本零円札》など、当館のコレクションを補強する作品、さらに、自身も絵を描き、広島出身の作家を支えたパトロンでもあった中丸雪清のコレクションが加わりました。

このコレクションにはあいまつ鬚光の色紙や帯、まるきい丸木位里やわだかせつじ和高節二、かんだしゅうぞう神田周三やふなだぎよくじゅ船田玉樹と幅広い作家との交友が分かる作品や資料も含まれています。雪清の作家としての活動はまだ十分に分からないものの、その動向を考える上で貴重な資料といえるでしょう。

購入や寄贈などにより、当館のコレクションは現在では約 5,200 件にまで成長しました。これらのコレクションを大切に後世へ伝えていくとともに、特徴あるコレクションの充実に努めてまいります。

これからも、美術作品に出会い、文化に接するひとときをお楽しみください。



廣田堅《朝鮮の壺と鑄缶》  
1953年

## 【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせん小林千古・こみなみくんぞう南薫造・あいまつ鬚光、日本画家のこだま きぼう児玉希望・おくだ げんそう奥田元宋・ひらやま いくお平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゅう平櫛田中・えんつばかつぞう圓鐔勝三、工芸作家のろっかくしすい六角紫水・しみず なんざん清水南山・いまい まさゆき今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1階ロビーで画家・すがいくみ菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



## 【関連イベント】

### ■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時：2024年1月19日(金) 15:00～(約45分)

場所：2階展示室

講師：角田新(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)、  
岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)

定員：15名

※要入館券。会場入口でお待ちください。

### ■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

日時：①2024年2月10日(土) 15:00～

②2024年3月16日(土) 15:00～

場所：2階展示室

ナビゲーター：①福田浩子(当館学芸課長)、岡地智子(当館主任学芸員)

②岡地智子(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)

定員：8名

※要事前申込【Tel 082-221-6246(当館)】

※要入館券。2階会場入り口でお待ちください。

### ■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15分間)

①2024年1月30日(火) 17:00～講師：角田新(当館主任学芸員)

②2024年2月13日(火) 17:00～講師：角田新(当館主任学芸員)、神内有理(当館主任学芸員)

③2024年3月5日(火) 17:00～講師：角田新(当館主任学芸員)、岡地智子(当館主任学芸員)

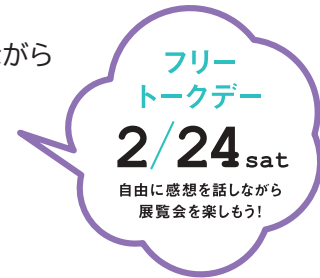
④2024年3月26日(火) 17:00～講師：角田新(当館主任学芸員)、森万由子(当館学芸員)

公式インスタグラムはこちらから



■フリートークデー 2023年2月24日(土) 9:00～17:00

この日は、子供も大人も自由に普通に会話する声の大きさを感想を話しながら所蔵作品展を楽しんでいただける、特別な一日としています。  
また、併せて次のイベントを実施しますのでご参加ください。



①ベビーカーツアー 10:00～10:30

授乳室など館内案内の後、展示室を案内します。

講師：福田浩子（当館学芸課長）

定員：5名

※事前申込制【Tel 082-221-6246(当館)】 ※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

②みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートを見よう～ 10:30～11:30

知的な障害のある方を対象とした鑑賞会です。作品を見て思ったこと、感じたことを話しながら鑑賞します。

主催：広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター

※事前申込制【お問い合わせ・申し込みは広島県アートサポートセンターまで [hululu@hullpong.jp](mailto:hululu@hullpong.jp) (1月初旬頃申込受付開始予定)

③対話型鑑賞 15:00～16:00

HACH (Hiroshima Arts&City Hive) と共同で実施します。思ったこと、感じたことをみんなで共有しながら作品を鑑賞します。

ファシリテーター：片島蘭（広島市立大学非常勤特任教員） 協力：森万由子（当館学芸員）

定員：10名程度

※事前申込制（お問い合わせ・申し込みはHACHまで [hach\\_info@icloud.com](mailto:hach_info@icloud.com)）

※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

④作品の缶バッジを持って、作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がデザインされた缶バッジを配布します。どの作品が缶バッジにデザインされているのか、展示室で探してみてください。

先着：100名

※事前申込不要 ※要入館券

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、  
1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。(ボールペンなど使用不可)

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下寿水

総務課 広報担当 一色直香

公式 SNS はこちらから

